

## いわてシニアの会夏の企画実施報告

日時 令和8年8月20日（木）

### 第一部 工場訪問

訪問先 東日本機電開発株式会社 本社・工場 （盛岡市手代森）

訪問時間 15:00～ 16:30

参加者 小野寺、水戸谷、対馬、深澤、宮下。志田（記）

訪問先説明 水戸谷 剛 社長

所感 当社は1970年に盛岡市下太田で操業、それ以来基板事業である機電事業（各種プラント向けの制御システム開発・設計・製作・販売及び施工）を中心に成長してきた。

昨今新たな事業領域として環境事業・新規事業の開拓に取り組んでいるとの事であった。

まずヒストリカルな機電事業では岩手、秋田、青森を中心に事業展開しており、そのプラントに合った個別使用の開発仕様になるため、独自の受注体系を取っており、組み立て工場も一般的なライン形式ではなく、一品一様であるため一人の方が最後まで仕上げるという方式をとっていたのには少々驚いた。このため資材の在庫管理がすっきりとした形態になっていた。



次は環境事業である、これは特殊肥料の製造・販売といちご閉鎖型高設栽培システムの設計・施工・販売である。この事業は本会員である宮下さんが当時進めていた事業を具体化したものであるとの事であった。

最後に新規事業開拓であるが、これはエネルギーシフトをキーワードにした事業の企画・推進である。具体的な内容はマイクロ多孔物資をつかった、廃熱エネルギーの回収と放出による既存の石油エネルギーの削減を狙ったものである。熱源としては温泉の排熱、焼却施設の排熱、セメント工場からの排熱などを考えており、用途として農業ハウスの暖房、冷蔵施設の結露防止等を狙っており、今現地での実験・検証作業を行っている。排熱回収利用といえど大規模な設備と輸送が問題になるが、超小型で乗用車でもハンドリング可能なサイズ感にしたことが最大のポイントである。さらに ILC 関連事業としてはニオブ製超電導加速空洞内面の電解研磨技術を開発し製品を納入済みとの事であった。

このように、地域に根差し、地域との共存を根底に置いた事業展開を進めていくという姿はとても素晴らしいことだと痛感した。特に吸着式蓄熱材を使った排熱利用システムについては、是非日の目を見て欲しいものである。（以上 志田）

## 第二部 暑気払い

場所 岩手の居酒屋 じょ居

時間 17:30 ~ 19:30

参加者 小野寺、水戸谷、深澤、熊谷、宮下、沼田、多田、鈴木、対馬、志田

暑気払いという事で、10名の方に参加して頂いた。小野寺会長の乾杯の音頭を皮切りに、まずは工場見学者の所感、次いで宴会参加者からの近況報告をすませて、それぞれの近況等話が弾んで、瞬く間に時間となっていました。

対馬さん締めで時間前ではありましたが、お開きとなり、それぞれ帰宅の途につきました。

(以上)

